



第16回ともなり文芸祭り 誌上大会大賞作品決定!!

鎌倉時代の文学史を飾った矢板市の初代川崎城主、塩谷朝業をしのび、平成11年度からともなり文芸祭りを開催しています。
今年度からは誌上大会となり、県内（短歌一般のみ全国）から短歌、俳句、川柳、詩の4種目に合計7,481作品の応募がありました。

その中から、各部門、各種目において大賞1名、準大賞1名、奨励賞3名（詩一般の部のみ1名）、入選10名（短歌一般の部30名、詩一般の部2名）を選出しました。今号では、大賞を受賞した全作品をご紹介します。受賞おめでとうございます。
問い合わせ/生涯学習課 ☎(43)6218

ステキな作品を
たくさん応募
してくれて
ありがとうナリ~!



短歌 小学生の部
かべに手が
練習の成果 はつきした
かなづちの私 二十五泳いだ
川崎小学校六年 松浦 未空

短歌 中・高校生の部
飛んで行け
心の中の この不安
ボールと共に 遙か彼方へ
泉中学校一年 渡邊 拓馬

短歌 一般の部
論戦が
熱を帯びても おたがいに
最後の線は 弁えている
香川県善通寺市 森本 義臣

俳句 小学生の部
ひぐらしの
声にせかさされ 宿題す
矢板東小学校六年 中郷 綾乃

俳句 中・高校生の部
秋風に
吹かれ思うは 進路かな
矢板中学校三年 齋藤 丈一郎

俳句 一般の部
虫干しの
着ることのなき 晴着かな
さくら市 角田 文江

詩 小学生の部
私の通学路
矢板小学校四年 高塩 未羽
私の通学路はとても短い
徒歩一分もかからない
学校がとても近いのだ
だからこの四年間一度もちこくはない
私の小さな自まんだ
「いつてきます」の元気な声で
校門まであつという間
こんな短い通学路でも春夏秋冬は
ちやんとここにもある
春は桜のじゅうたんピンクにそまる
夏はセミと一緒で大合唱
秋はカサカサ落ち葉でステップふんで
冬は氷の小さなスケートリンク
どの季節も私は大好きだ
三才の弟もいつかこの通学路を歩く
その時私は中学生だ
またちがう通学路を歩いていくんだろうな
大きくなつて思い出す
私を通った短い通学路
あと半分もないけれど
私には見える
この先も元氣いっぱいに通う私の姿
また次の季節がやってくる
この道がそれを教えてくれるんだ
私は今日も学校に行く
私の特別な通学路を歩きながら

詩 中・高校生の部
桜と私の物語
片岡中学校二年 村上 摩弥
桜は短命ではかない
しかし、散りゆくその時まで力強く咲き乱れる
その姿はまるで何かを訴えるように
風に吹かれた無数の花弁が私に訴える
私は生きている
どんなに短くても今を生きている
例え短い命でもその時まで力強く今を生きている
どんなに短くたってやることは必ずある
あきらめてはいけない
時間を無駄にしてはいけない
最後のその時まで悔いのないよう精いっぱい生きるのよ
とても力強いメッセージだった
私はフツと笑った
そして届くかどうかかわからないメッセージをつぶやいた
「力強いメッセージをありがとう
私も悔いのないよう今を精いっぱい生きるよ」と
これは桜と私の物語
短くそして力強い物語
たったこれだけの話
でもそこにこめられた思いを忘れることはない

川柳 小学生の部
ポイすてで
心もいっしょに すてている
片岡小学校五年 大嶋 希未

川柳 中・高校生の部
帰り道
会話なくなり 気まずくて
矢板中学校二年 小久保 歩

川柳 一般の部
額縁の
妻を連れ出し 紅葉狩
芳賀郡益子町 田野 恵美子

詩 一般の部
「欠陥ポンプ」
矢板市 中郷 香織
母に抱かれた私の中で
小さな欠陥ポンプが動く
動きが鈍いのは まだ慣れないから
ぎこちなく動く
トクン トクン
隠れんぼする私の中で
幼い欠陥ポンプが動く
上手に動けないのは まだ小さいから
ゆっくり動く
トクン トクン
剣道する私の中で
成長した欠陥ポンプが動く
機関車のよに動くのは 私と一緒に飛び跳ねるから
頑張つて動く
バックン バックン
恋する私の中で
夢みる欠陥ポンプが動く
ゆらゆら動くのは 魔法にかけられたから
夢うつつて動く
トクン トクン
小さな宝物を抱きながら
大きくなった欠陥ポンプが動く
あたたかいのは、小さなポンプを包んでいるから
ふわふわ動く
トクン トクン
機械をつけられた私の中で
壊れかけた欠陥ポンプが動く
おかしな音をたてるのは 緊張しているから？
ドン ツー ドン ドン ツー ドン
雪を踏むよに
キュー キュー キュー
寒くないのに
キュー キュー キュー
欠陥ポンプは壊れそう
私は願う
まだ壊れないで！
宝物が大きく育つまで
いつも願う
まだ壊れないで！
宝物をもう少し見ていたい
朝を迎える私の中で
頑張る欠陥ポンプが動く
諦めない欠陥ポンプが動く
キュー キュー キュー
そして私は手術室に向かう